

2024年9月22日 聖霊降臨後第十八主日礼拝説教
「死に向かう道の上で」(マルコ9章30～37節)

○マルコ9章30～32節について

「イエスは人に気づかれるのを好まなかった。」(30節)
救い主イエスは、ご自身の〈苦しみと死〉〈よみがえり〉について語られた後、人々との関わりを避け、死の待ち受けるエルサレムへ向かうことだけを目指し、進んで行かれる。

「それは弟子たちに、『人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する』と言っておられたから」(31節)

☞弟子たちは、死に至る道を歩んでいくキリストの御心も苦しみも分からず、そのことを敢えて触れずに、道の上で「だれがいちばん偉いかと議論し合っていた」(34節)。

問：あなたも、キリストの御心を知ろうとしているか？

今日のみことば：マルコ9章35節

「いちばん^{さき}先^{もの}になりたい者は、すべての人^{ひと}の後^{あと}になり、すべての人^{ひと}に仕える者^{つかもの}になりなさい。」

あ) 後：いちばん後ろ、最も端にあるところ

い) 仕える者：神の救い、御心を人々に届けていく者

神の子イエスは、みことばのとおり、すべての人よりも後に追いやられ、だれよりも酷い仕打ちを受け、十字架によって父の御心を成し遂げ、救いの道を〈あなた〉に与えられた。

「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」(マタイ20:28)

*身代金：奴隷を自由にするため支払われる代価

☆父なる神は、罪と死の虜であった〈あなた〉を救われるかわりに、十字架の上で、独り子イエスの命を取られた。

※だれよりも低くされたキリストを仰ぎ見ながら、人よりも先に上へと行こうとする愚かで、欲深い心を悔い改めよ。